

東和薬品株式会社

2026年3月期第2四半期(中間期) 決算説明会

【概要】

日時:2025年11月12日(水)15:00～16:00

登壇者:代表取締役社長	吉田 逸郎
常務取締役	内川 治
取締役	國分 俊和
取締役	竹安 正顕
上席執行役員 生産本部長	田畑 哲朗
執行役員 経営戦略本部長	中村 豪之
執行役員 経理財務本部長	畑上 史朗
執行役員 営業本部長	大石 康之

【決算説明スクリプト】

※目次や参考資料など、ご説明していないスライドは省略しています。

2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算補足説明資料

2025年11月
(証券コード:4553)

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。
© Copyright 2025 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.



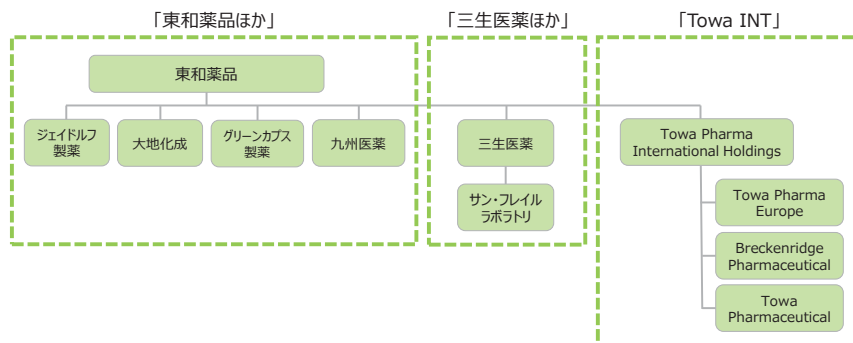
本日は、お忙しいところ ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
東和薬品の國分でございます。

それでは私から
“2026年3月期第2四半期 決算補足説明資料”に沿って、
ご説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

決算開示資料について

注意事項

- 本資料内では、国内セグメントの内訳につきまして、東和薬品、ジェイドルフ製薬、大地化成、グリーンカプス製薬、九州医薬を「東和薬品ほか」と表記し、三生医薬、サン・フレイルラボラトリを「三生医薬ほか」と表記しております。
なお、2025年4月1日に三生医薬を存続会社、カマタを消滅会社とする吸収合併を行いました。
また、海外セグメントのTowa Pharma International Holdingsにつきまして、「Towa INT」と表記しております。



それでは、スライド1ページをご覧ください。
ご説明に先立ちまして、
当第2四半期の決算開示内容の前提についてご説明いたします。

本資料内では、国内セグメントの内訳につきまして
東和薬品、ジェイドルフ製薬、大地化成、
グリーンカプス製薬、九州医薬を「東和薬品ほか」と表記し、
三生医薬、サン・フレイルラボラトリを「三生医薬ほか」と表記しております。
なお、2025年4月1日に三生医薬を存続会社、
カマタを消滅会社とする吸収合併を行いました。

また、海外セグメントの
トーワ・ファーマ・インターナショナル・ホールディングス及び
その子会社につきましては、
「トーワ アイ エヌ ティー」と表記しております。

2026年3月期第2四半期 決算について

● 前年同期比：連結で、売上高は増収、営業利益は減益

売上高は、東和薬品で生産数量の増加に伴い販売数量が増加したこと、三生医薬で国内健康食品事業が伸長したことにより、増収
売上総利益は、三生医薬で原価率が上昇したものの、Towa INTで新製品発売の効果により原価率が低下し、増益
営業利益は、三生医薬で原価率が上昇したこと、Towa INTで販管費が増加したことにより、減益
経常利益は、デリバティブ評価益を約15億円計上したことにより、増益

● 通期計画比：連結で、売上高46.6%、営業利益38.7%

売上高は、東和薬品で販売数量が想定を若干下回ったこと、Towa INTが欧州・米国ともに不調だったことにより、上半期計画未達
売上総利益は、東和薬品で売上の進捗が若干遅れたこと、

三生医薬・Towa INTの欧州BtoBで原価率が想定よりも上昇したことにより、上半期計画未達

営業利益は、東和薬品では販管費の費消遅れにより計画通りの進捗だったものの、連結では三生医薬・Towa INTの不調により、上半期計画未達
経常利益は、計画外のデリバティブ評価益を約15億円計上したことにより、上半期計画達成

	26/3 2Q実績		25/3 2Q実績	26/3 上半期計画		26/3 通期計画	
	金額	前年同期比	金額	金額	達成率	金額	進捗率
売上高	1,304億円	+ 5.7%	1,234億円	1,345億円	97.0%	2,800億円	46.6%
売上総利益	472億円	+ 5.1%	449億円	501億円	94.2%	1,040億円	45.4%
営業利益	104億円	- 0.7%	105億円	120億円	87.0%	270億円	38.7%
経常利益	119億円	+ 15.9%	103億円	111億円	107.9%	253億円	47.3%
親会社株主に帰属する 中間純利益	82億円	+ 25.3%	65億円	80億円	102.7%	177億円	46.4%
期末レート (TTM) 1ドル	26/3 2Q 148.88円	25/3 4Q 149.52円	25/3 2Q 142.73円	24/3 4Q 151.41円			

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2025 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

4

続きまして、スライド4ページをご覧ください。
当第2四半期の決算について、ご説明いたします。

連結売上高は、約1,304億円となり、
前年同期比5.7%の増収となったものの、上半期計画は未達となりました。

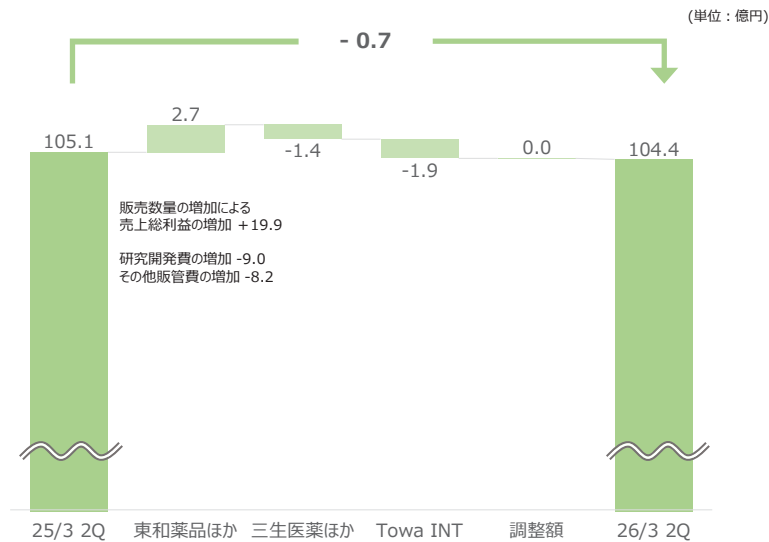
連結営業利益は、約104億円となり、
前年同期比0.7%の減益で、上半期計画は未達となりました。

各セグメントの決算概要については、
「東和薬品ほか」は増収・増益で、
売上高は 計画に対して若干遅れているものの、ほぼ計画通り、
セグメント利益は計画通りの進捗となりました。

「三生医薬ほか」は増収・減益で、
売上高は計画通りに進捗したものの、
セグメント利益の進捗率は低調な推移となりました。

「Towa INT」は減収で赤字幅が拡大しており、
売上高・セグメント利益ともに上半期計画は未達となりました。

2026年3月期第2四半期 営業利益の増減要因



スライド5ページをご覧ください。
連結営業利益の増減要因について、ご説明いたします。

「東和薬品ほか」において、
販売数量の増加に伴い売上総利益が増加したものの、
「三生医薬ほか」で原価率が上昇したことと、
「Towa INT」で販管費が増加したことにより、
連結営業利益は前年同期比約0.7億円の減益となりました。

2026年3月期第2四半期 決算概要（連結）

- 前年同期比：東和薬品で販売数量が増加したことにより増収だったものの、三生医薬・Towa INTの不調により減益
経常利益は、デリバティブ評価益を約15億円計上したことにより増益
（前年同期はデリバティブ評価損を約12億円計上）
- 計画比：売上高は、東和薬品で販売数量が想定を若干下回ったこと、Towa INTの不調により、上半期計画未達
営業利益は、三生医薬・Towa INTが不調だったことにより、上半期計画未達
経常利益は、計画外のデリバティブ評価益を約15億円計上したことにより、上半期計画達成（単位：百万円，％）

	26/3 2Q実績			25/3 2Q実績		26/3 上半期計画			26/3 通期計画		
	金額	対売上 高比率	前年 同期比	金額	対売上 高比率	金額	対売上 高比率	達成率	金額	対売上 高比率	進捗率
売上高	130,476	100.0	+ 5.7	123,404	100.0	134,500	100.0	97.0	280,000	100.0	46.6
売上原価	83,270	63.8	+ 6.1	78,490	63.6	84,400	62.8	98.7	176,000	62.9	47.3
販 管 費	36,762	28.2	+ 6.9	34,400	27.9	38,100	28.3	96.5	77,000	27.5	47.7
営業利益	10,443	8.0	- 0.7	10,513	8.5	12,000	8.9	87.0	27,000	9.6	38.7
経常利益	11,979	9.2	+ 15.9	10,338	8.4	11,100	8.3	107.9	25,300	9.0	47.3
税引前 中間純利益	11,955	9.2	+ 16.1	10,300	8.3	11,100	8.3	107.7	25,300	9.0	47.3
親会社株主に帰属する 中間純利益	8,214	6.3	+ 25.3	6,555	5.3	8,000	5.9	102.7	17,700	6.3	46.4

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2025 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

6

スライド6ページをご覧ください。
連結の決算概要について、ご説明いたします。

連結売上高は、東和薬品で販売数量が増加したことにより、
前年同期比5.7%の増収となりました。

上半期計画に対しては、
東和薬品で販売数量が想定を若干下回ったこと、
Towa INTが欧州・米国ともに不調だったことにより、
未達となりました。

連結営業利益は、前年同期比0.7%の減益となりました。

上半期計画に対しては、
東和薬品は販管費の費消遅れがあり計画通りの進捗だったものの、
三生医薬・Towa INTが不調だったことにより、
未達となりました。

なお、連結経常利益は、計画外のデリバティブ評価益を約15億円計上したことにより、
増益で上半期計画も達成しております。

2026年3月期第2四半期 決算概要（東和薬品ほか）

- 前年同期比：東和薬品において生産数量の増加に伴い市場への供給数量が増加したことにより、増収増益
- 計画比：売上高は、東和薬品において限定出荷の影響で販売数量が想定を下回ったこと等により、進捗率は若干遅れているものの、ほぼ計画通り
セグメント利益は、研究開発費等の販管費の費消が遅れたことにより、計画通り

（単位：百万円，％）

	26/3 2Q実績			25/3 2Q実績		26/3 通期計画		
	金額	対売上高比率	前年同期比	金額	対売上高比率	金額	対売上高比率	進捗率
売上高	90,407	100.0	+ 8.1	83,633	100.0	196,500	100.0	46.0
売上原価	54,855	60.7	+ 9.5	50,078	59.9	118,500	60.3	46.3
販 管 費	23,066	25.5	+ 8.1	21,343	25.5	49,800	25.3	46.3
セグメント利益	12,485	13.8	+ 2.2	12,211	14.6	28,200	14.4	44.3

- 販売数量実績（東和薬品単体、錠剤・カプセルのみ）
→ 約76億錠 対前年同期5.6%増加 通期計画進捗率47.7%
- 生産数量実績（東和薬品単体、錠剤・カプセルのみ）
→ 約80億錠 対前年同期17.0%増加 通期計画進捗率49.3%

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2025 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

7

スライド7ページをご覧ください。
「東和薬品ほか」の決算概要について、ご説明いたします。

売上高は、生産数量の増加に伴い市場への供給数量が増加したことにより、前年同期比8.1%の増収となりました。

通期計画に対しては、
限定出荷の影響で販売数量が想定を下回ったこと等により、
進捗に若干遅れがあるものの、ほぼ計画通りの進捗率となりました。

セグメント利益は、2.2%の増益で、
研究開発費等の販管費の費消が遅れたことにより、
計画通りの進捗率となりました。

東和薬品単体の販売数量は約76億錠となり、
対前年同期5.6%の増加となりました。

また、生産数量は約80億錠となり、
対前年同期17.0%の増加となりました。

2026年3月期第2四半期 決算概要（三生医薬ほか）

- 売上高は、国内健康食品事業が伸長したこと、ニューアプリケーション事業において1Qに発生した受託製造の月ズレが一部取り戻せたことにより、増収で計画通りの進捗
- セグメント利益は、利益率の良いニューアプリケーション事業が2Qでは伸長したものの、1Qで発生した遅れを補いきれずセールスミックスが悪化して売上原価率が上昇し、減益で進捗率も低調に推移

(単位：百万円, %)

	26/3 2Q実績			25/3 2Q実績		26/3 通期計画		
	金額	対売上高比率	前年同期比	金額	対売上高比率	金額	対売上高比率	進捗率
売上高	14,507	100.0	+ 5.9	13,704	100.0	30,200	100.0	48.0
売上原価	11,613	80.0	+ 8.6	10,697	78.1	23,200	76.8	50.1
販管費	2,123	14.6	+ 1.4	2,093	15.3	4,600	15.2	46.2
セグメント利益	771	5.3	- 15.5	913	6.7	2,400	7.9	32.1

※のれん償却費は含まれません。

スライド8ページをご覧ください。
「三生医薬ほか」の決算概要について、ご説明いたします。

売上高は、
国内健康食品事業が伸長したこと、
ニューアプリケーション事業において
第1四半期に発生した受託製造の月ズレが一部取り戻せたことにより、
前年同期比5.9%の増収で、計画通りの進捗となりました。

セグメント利益は、
利益率の良いニューアプリケーション事業が第2四半期では伸長しましたが、
第1四半期で発生した遅れを補いきれず、
セールスミックスが悪化したことで売上原価率が上昇し、
前年同期比15.5%の減益で、進捗率も低調に推移しました。

2026年3月期第2四半期 決算概要（Towa INT）

- 売上高は、欧州BtoBにおいて受託製造の遅れがあったことと、米国及び欧州BtoCにおいて一部製品の売上が悪化したことにより、進捗率が低調に推移
- セグメント損失は、欧州及び米国の売上高が低調な進捗だったことと、欧州BtoBにおいて生産数量が想定を下回ったことにより売上原価率が上昇し、進捗率が低調に推移

（単位：百万円，％）

	26/3 2Q実績			25/3 2Q実績		26/3 通期計画		
	金額	対売上高比率	前年同期比	金額	対売上高比率	金額	対売上高比率	進捗率
売上高	25,851	100.0	- 1.3	26,180	100.0	54,600	100.0	47.3
欧州	16,078	62.2	+ 2.1	15,748	60.2	34,200	62.6	47.0
米国	9,772	37.8	- 6.3	10,432	39.8	20,400	37.4	47.9
売上原価	16,958	65.6	- 4.8	17,821	68.1	34,600	63.4	49.0
販管費	9,483	36.7	+ 8.4	8,749	33.4	19,300	35.3	49.1
セグメント利益（損失）	- 590	- 2.3	-	- 391	- 1.5	700	1.3	-

期中レート（TTM） 1ユーロ	26/3 2Q	25/3 2Q	26/3 想定レート	期中レート（TTM） 1ドル	26/3 2Q	25/3 2Q	26/3 想定レート
	168.06円	165.95円	156.00円		146.04円	152.63円	145.00円

※通期計画の売上高・セグメント利益には、東和薬品との内部取引を含みます。
※のれん償却費は含みません。

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2025 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

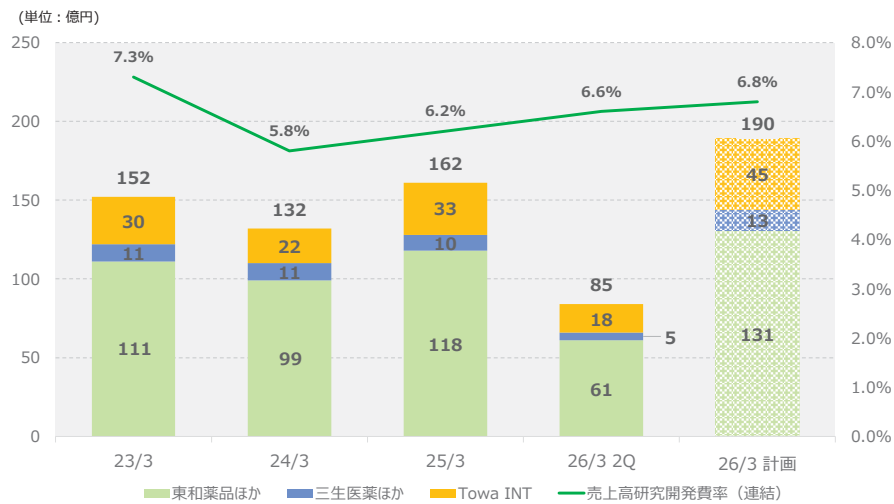
9

スライド9ページをご覧ください。
「Towa INT」の決算概要について、ご説明いたします。

売上高は、前年同期比1.3%の減収で、
欧州BtoBで受託製造の遅れがあったことと、
米国及び欧州BtoCで一部製品の売上が悪化したことにより、
進捗率も低調に推移しました。

セグメント損失は、前年同期比で赤字幅が拡大し、
欧州及び米国の売上高が低調な進捗だったことと、
欧州BtoBで生産数量が想定を下回ったことにより、
売上原価率が上昇し、進捗率も低調に推移しました。

研究開発費（連結）



※グループ間取引消去後の数値を使用しております。
 ※Towa INTと三生医薬の23年3月期の連結会計年度は2022年1月1日～2023年3月31日の15ヶ月となっております。
 ※25年3月期より億円未満の端数処理方法を変更しております。

こころの実業を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2025 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

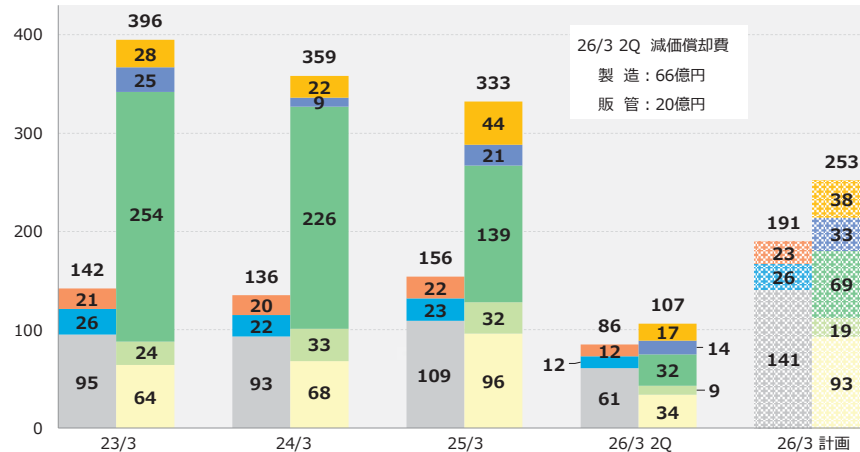
10

スライド10ページをご覧ください。
研究開発費の推移と計画との比較について、ご説明いたします。

東和薬品における新製品開発の月ズレ等により、
連結で約85億円と進捗に若干遅れがあるものの、
通期では計画通りに着地する見込みとなっております。

設備投資・減価償却費（連結）

（単位：億円）



※設備投資には有形固定資産・無形固定資産の取得を含みます。
 ※減価償却費には研究開発費を含みます。
 ※減価償却費にはTowa INT及び三生医薬ののれん償却費を含みません。
 ※Towa INTと三生医薬の23年3月期の連結会計年度は
 2022年1月1日～2023年3月31日の15ヶ月となっております。
 ※25年3月期より億円未満の端数処理方法を変更しております。

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2025 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

11

スライド11ページをご覧ください。
 設備投資・減価償却費の推移について、ご説明いたします。

当第2四半期の設備投資は約107億円となり、
 ほぼ計画通りに進捗しております。

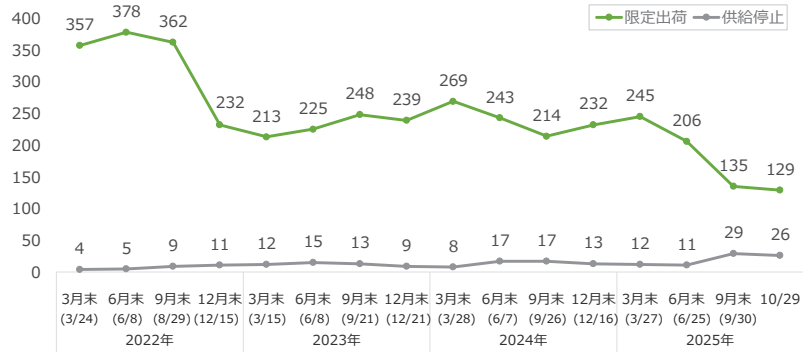
減価償却費は約86億円となっております。

生産体制・限定出荷

● 生産能力向上に向けた取り組み

2025年10月より山形工場 第三固形製剤棟の設備立上げが完了、
来期は、中計で開示した“東和薬品3工場 175億錠/Capの生産能力”を達成できる見込み。
引き続き増産に取り組むとともに、限定出荷品目数の削減も図っていく。

● 限定出荷品目数の推移



※従来、弊社医療関係者向けサイト及びIR活動で開示している限定出荷品目数には供給停止品目数を含みます。

※2025年8月20日にリリースした注射用アンブル製品の自主回収に伴い、2025年9月末以降の供給停止品目数が増加しております。

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2025 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

12

スライド12ページをご覧ください。
生産能力向上に向けた取り組みと、
限定出荷品目数の推移について、記載しております。

2025年10月より山形工場 第三固形製剤棟に導入した
設備の立上げが完了いたしました。
来期は、第6期中期経営計画で開示した
“東和薬品の3工場で175億錠の生産能力”を
達成できる見込みとなっております。
引き続き増産に取り組むとともに、
限定出荷品目数の削減も図ってまいります。

目次

1. 2026年3月期第2四半期 決算概要
2. 参考資料

最後に スライド13ページからスライド24ページにて、
参考資料を記載しております。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。
ご清聴いただきありがとうございました。

【質疑応答要旨】

※ご参考として、決算説明会における質疑応答の内容を要約したものです。

Q：東和薬品で販売数量が想定を若干下回った理由を教えてください。

A：限定出荷の影響が大きい。生産数量は計画通り進捗しているが、需要と供給の関係で限定出荷を大きく解除できたのは9月になった。2Q前半では限定出荷品目数がまだ多く残っている状況であり、販売数量の未達に繋がった。3Q以降は通常出荷に戻した製品の拡売を行って数量を引き上げていく。

Q：来年の薬価改定に向けて、価格動向を教えてください。

A：今期は仕切り価戦略を始めて2年目。妥結も進んでいるが、仕切り価戦略の背景を顧客に説明してご理解を頂いている状況である。一方で、当社の考える適正価格の水準に近付いているとも感じる。来期以降の戦略は、薬価改定率も鑑みながら検討していきたい。

Q：後発品の企業指標でAとなった企業の銘柄別収載について、御社への影響は。

A：対象品目が非常に限られているため、品目数が増えない限り業績への影響は限定的になると思われる。ただ、企業指標は引き続き意識して取り組んでいきたい。

Q：選定療養開始からほぼ1年が経過したが、御社への影響は。

A：昨年10月の施行後2ヶ月ほどでGEシェアが大きく伸びたが、それ以降は大きな伸びにはなっていないと認識している。また、今年4月の薬価改定時に対象品目が変わったが、対象外になった製品が先発に回帰するということも起きていない。患者さんの負担割合が25%から変わってくるとまた影響が出るのではないかな。

Q：Towa INTの業績が厳しいと思う。通期計画達成のためには下期で16億円の利益を出す必要があると思うが、可能なのか。

A：(上期未達要因) 米国において、主力製品の1つであるデュロキシチンの売上がニトロソアミン問題の影響で下がっている。今年の1月1日にFDAが基準を厳格化しており、現在は昨年12月までに積み増した在庫から販売している。改良品の開発も進めて安定性試験を行っているが、まだ承認が下りておらず、在庫が尽きてきて売上が落ちてしまった。デュロキシチンはスペインの工場で製造しているため、生産数量が少なくなること稼働率が低下し、欧州の原価率悪化にも繋がった。また、欧州において、BtoBで製造受託の月ズレ、BtoCで新製品発売の月ズレが発生した。販管費は賃上げ等による人件費の増加やインフレの影響によって増加した。また、東和薬品との共同開発において、開発が遅れているため日本からのライセンスフィーの支払いも遅れている。

(通期の見通し) ライセンスフィーは一部期ズレになってしまう可能性があるが、それを除

いた通常のビジネスは概ね計画通り着地する見通し。欧州において BtoB の受託製造が 3Q で伸びており、また欧州向けのデュロキシセチンについて、今年 12 月の基準厳格化前の駆け込み需要により注文が増加する見通しである。米国では、病院向けのオピオイドや専門薬局向けの抗がん剤などの新製品を発売しており、利益に貢献する。販管費は研究開発の選択と集中を行い、費用の適正化を行う予定である。

Q：東和薬品の生産数量について、175 億錠以降の生産能力の見通しを教えてください。

A：東和薬品 3 工場での 175 億錠の生産体制は一応完成した。今後は製造の効率化として自動化・スケールアップ・まとめ生産等を行い、50 億錠プラスの 225 億錠に高めたいと考えているが、まだ時間がかかると思う。また、さらなる増産を自社だけで行うことは難しいため委託数量を増やしていきたいが、当社の品質管理・生産管理の考え方に賛同いただける企業との協業を検討している。まだ公にはできないが話し合いは進んでおり、来年辺りには具体的にお話しすることができると思う。自社の生産能力を上げるのは 3～5 年ぐらいをかけてやることになり、協業も 3～5 年と時間がかかる取り組みになる。だいたい 10 年ぐらいかけて徐々に求められる供給体制が出来上がってくるのではないかと考えている。また、今後は何かあった時のバックアップ体制のような製造余力を持つ必要があると考えており、体制構築に向けて取り組んでいる。

Q：三生医薬について、1Q と比べると 2Q は良くなっているが、通期の見通しは。また、ニューアプリケーション事業という言葉が出てきているが、これはどういうものなのか。

A：ニューアプリケーション事業は、これまで健康食品事業・医薬品事業・その他の事業で説明していた事業のうち、その他の事業のこと。ニューアプリケーション事業で 1Q に発生した受託の月ズレが一部回復したことで 2Q は良くなっているが、1Q の月ズレをすべて取り戻すことはできなかった。海外の顧客が多いため現時点では必ずできるかどうかというところは分からないが、通期計画達成に向けて引き続き頑張っていきたい。

Q：生産は順調に進捗しているが、在庫状況はどうなっているのか。

A：在庫月数は前期末が 3 ヶ月ぐらいで、2Q は販売数量よりも生産数量の方が多かったため 2Q 末時点で 3.5 ヶ月ぐらいまで増加している。当社としては 3.5 ヶ月～4 ヶ月ぐらいの在庫を持っておきたいため最低ラインには達した状況だが、機会損失を防ぐためにも今期は引き続き増産に取り組んでいきたい。

Q：新製品の売上について、今期計画 25 億円に対して上期実績は 6.5 億円だが、メホビルとリバルエンパッチの状況は。

A：（メホビル）25 億円の計画の大半をメホビルが占めている。安定供給に万全を期すため発売を 9 月に遅らせたが、発売以降は順調に推移しており計画通りの着地を見込んでいる。

(リバルエンパッチ)5月に収載し、同月に発売した。詳細な売上は控えさせていただくが、週2回製剤として老々介護や独居問題に貢献できると思い、営業活動を鋭意進めている。

Q：品目統合について、迅速承認制度を活用した他社の動きが出てきているが、東和薬品の取り組みは。吉田社長がおっしゃる他社との協業は、品目統合とは違う取り組みなのか。

A：マル特申請を活用した品目統合は弊社でも検討している。以前からあった代替新規申請制度を迅速に行うというものであるため、今までの取り組みの延長になる。

多品目少量生産の解消が一番大きな課題となっている中で、品目統合による生産効率化は1つの解決方法ではあるが、将来のあるべき産業構造と生産供給体制を考えるとそれだけで終わりということではないと思っている。東和品質の製造管理・品質管理をベースにしたうえで何かあった時のバックアップ体制も含めた供給体制を作ることが最終的な理想形。品目統合だけではまだ第一段階であり、協業という形でこれらの要素を全部含んだ上で話をしながら将来の安定供給体制を作っていきたいと考えており、この点が他社の取り組みとは違うのではないかと思う。